

第4回水木しげるロードリニューアル基本計画・基本設計検討委員会 議事概要

日時 平成26年11月25日(火) 13:30~14:30
場所 境港商工会議所 大会議室
出席者 別紙

1. 開 会

2. 委員長挨拶

本日は、前回委員会で取りまとめた地元の意見を踏まえて、堀教授から提案された基本設計修正案に対して意見交換を行い、この案についての承認をいただく。

それ以外のブロンズ像の配置、舗装、植栽、休憩スペースのデザインなどについては、今後議論を進めていく。

3. 基本設計修正案の説明（堀教授）

昨年度は基本構想を委員長として取りまとめた。今年度は基本設計の実践部隊として、集中的に取り組んでいる。境港の水木しげるロードを世界一の観光地にする意気込みでやっている。

道路線形があらかた固まった。今後、ブロンズ像を入れた休憩スペースの設計を行い、これが魅力的に出来ればびっくりするほど変わる。

資料1ページから4ページが道路の平面図、5ページが道路の平面線形図。

【平面図の見方について】

黄土色は、歩道舗装を行う歩道であり、幅員は2メートル。法令上、車椅子が十分に通れる幅を確保している。実際の歩行スペースは3.5メートルを確保しているが、舗装は2メートルとすることで、視覚的に休憩スペースを広く見せる効果がある。

水色は、それ以外の歩道であり、幅員は1.5メートルから5メートル。このスペースが道路の中で最も大切なところであり、ここに楽しく妖怪ブロンズ像と写真を撮ったり、それを見て休むスペースをたっぷりとる。特に広くなっている部分は、広場的に使うことが可能であり、ここをいかに楽しいスペースにできるかが重要。

例えば、三平茶屋の前の広場は重要。水木ロードでは、沿道自体が魅力となる所が少ないが、唯一、千代むすび酒造が魅力的。ブロンズ像と一緒に千

代むすび酒造をバックに写真を撮れるといい。これは一例であり、これらが図面によって正確に把握できる。

また、朝日生命前と大正橋付近は、両側に水色のスペースがあるが、ここは観光客が歩くときに両側に楽しいスペースを作ることが出来るため非常に重要。

これらが一目瞭然にどの場所がどういうポテンシャルを持っているかが分かるようになっている。

グレーは車道。車道の中に緑色の部分がある。これも車道ではあるが、緑色はグレーの部分よりも一段高くして歩道と同じ高さにしてある。これは通常ハンプといい、ユニバーサル対応である。車椅子などが歩道から車道へ行く場合、上がったたり下がったりせず通行が可能。

車が人間に合わせた形になっており、人間を大切にしている。このような道は日本には多くない。

車道に付帯した赤いスペースは荷捌きスペースである。

【1 ページ】

ご意見をいただき、道路の中心を、交差点では真ん中になるように設計した。ただし、完全に真ん中にする、休憩スペースが中途半端になるのでその場合は調整している。

市道97号線（しおさい会館前）は、要望により対面通行とした。このため、張り出した部分が若干小さくなったが、ここはまちが良く見える場所なのでうまく活用する。

荷捌きスペースは2カ所とっている。

大正町は、交差点と交差点の間が長い、ここだけ唯一、交差点でないところに横断歩道を入れることにした。みなと家旅館と妖怪神社の間の緑の部分。

先ほど、歩道の舗装を2メートル入れると言ったことを再度説明する。

みなと家旅館の前、水色の部分が5メートル、黄土色の部分が2メートルになっている。実際は、3.5メートルの歩道を舗装によってちょっと狭める工夫をすることによって5メートルの広い空間を表現する。これはお客さんを大事にしてもてなすということなる。

荒木さんや黒見商店前の広場が道に張り出しているが、ここから駅のほうや水木しげる記念館の方を見ると町全体を見ることが出来る。歩道の中からは意外とまちが見えない。車道からは見えるが通常車が走行している。このように張り出すとまちをバックに写真を撮ることが出来る。

【2ページ】

いけばんストアの前は荷捌きスペースとなっている。

このあたりから大正橋の鬼太郎とねずみ男を見ると、欄干とブロンズ像が一体になって埋没してよく見えない。これが、手前からよく見えるように演出していこうと考えている。

また、近くに行くとブロンズ像がよく見えるが、現況のスペースが少ないため、スペースを広くとった。

ここの部分は非常にいいところであり重要なので集中的にデザインをやっ
ていきたい。

そこから東に進み、交差点はなるべく真ん中に道を設置する。市道42号、
41号のT字路の交差点は、ハンプにして、歩行者が自由に渡れるようにす
る。

市道38号線までの道も交互に広場を設置し、ブロンズ像を上手く配置し、
観光客が記念館まで楽しく歩いて行ける工夫をしていく。

【3ページ】

前は、それぞれの十字路の横に2カ所荷捌きスペースがあったが、それ
よりは、楽しめるスペースがほしいとの意見があり、それぞれ1カ所ずつに
減らした。

ただ、南北の市道があり、そこには車が止められるので、荷捌きスペース
を半分にしたからといって不都合にならないと考えている。どこに車が止め
られるかシュミレーションして考えて作った。

交差点は、ハンプを設け、ユニバーサル対応とする。

歩道には、すべて誘導ロックを設ける。

車の通行ということが大事なので、あまりにも急なカーブやS字にならな
いように、間に直線部を入れるという配慮をしている。

【4ページ】

ここもT字路と交差点の間に荷捌きスペースを1カ所設け、ほかのところ
を大きく広場として確保した。

アーケード内は、歩車道を分離しない。

黄土色の部分は、広場的な舗装のみを施すが、道路はフラットである。

【5ページ】 横断図

(一般部)

全幅15メートル、歩道3.5メートルは確保する。3.5メートルの内、

歩道的な舗装をするのは2メートルにし、残りの部分を広場と一体の舗装にする。

ただし、3.5メートルしかないところは、全体を歩道舗装にするかもしれない。単純に2メートルで切るという乱暴なことはやらない。それぞれの場所に応じて丁寧に対応を考えていく。

車道は4.5メートル。構成は、1メートルが自転車道を兼ねたスペース、3メートルを車道の走行部、0.5メートルが路側というふうにご理解いただきたい。

反対の7メートルの歩道内訳は、2メートルの歩道と5メートルの広場を作り、スペースを確保した。

(停車帯部)

荷捌きスペースは、車道に追加する必要がある。3.5メートルの歩道と4.5メートルの車道は同じだが、停車帯用に2メートル確保し、広場を5メートルとした。停車帯が少し上がっているが、これは車道と区別するためであり、まだ決定ではない。

4. 意見交換

○委員

車道と歩道の段差は15センチということであったが、傾斜は何パーセントか。

●堀教授

まだ設計していないが、通常8パーセント程度で、構造令のとおりである。除雪の対応も考えていかなければならない。

○委員

現状の車道と、県道との車道の段差はあるか。

●堀教授

段差はない。

○委員

除雪の時と言っていたが、雪を捨てるスペースがあれば良いがどうか。

■事務局

雪のスペースを入れることは検討してみたい。

○委員

色々な配慮がされていて感心している。

○委員

荷捌きスペースのみ角があるが、アールは入れるのか。

- 堀教授
アールを入れることは可能であるが、無駄なスペースが生じる。デザインについては、次の段階で広場のデザインと一緒にを行う。
 - 委員
自転車道と車道は同じ色になるのか。
 - 堀教授
私の頭の中では、舗装は変える予定。
 - 委員
アーケードの西側の交差点に段差はあるか。
 - 堀教授
フラットである。歩道も擦り付ける。車道を上げることはしない。
 - 委員
1 ページ目、交差点の横断歩道は、南北の線が入っていないが、南北の方向に入るのか。
 - 堀教授
東西、南北両方入る予定。
 - 委員
自動車は一方通行であるが、自転車も一方通行なのか。
 - 堀教授
自転車は交互通行になる。
 - 委員長
歩道の方へ自転車道を確保するのは難しいか。
 - 堀教授
交通の利便性を確保すると、その分魅力が下がるため、バランスを取りながら判断する。
 - 委員長
道の形状としては、堀教授の修正案のとおりで良いか。
- ⇒ 一同承認

【オブザーバーの意見】

- 境港警察署
この図面を基に、今後、関係各課と協議を行っていく。また道路構造令以外にも道路交通法などとも照らし合わせていく。
- 鳥取県交通政策課
歩道が2メートルということであったが、大正川付近の黄土色の部分が広いが、舗装のみなのか。

●堀教授

ここは、民地がセットバックしているために広く見える。

広場的なスペースを取れということであれば、もう少し工夫してみる。

○委員長

ひとまず道の形については、この修正案のとおりとする。

5. その他（事務連絡等）

■事務局

点字ブロックは、2メートルの歩道の中に配置する予定。

今後の委員会の予定は、第5回 1月8日（木）、第6回 1月29日（木）、
第7回 2月24日（火）場所は、いずれも13時30分より境港商工会議
所大会議室で行う。

また住民説明会を、12月15日（月）19：00～保健相談センター
で行う。

以 上